

単元案の概要

科目名：スペイン語

学年、年次〈レベル〉 3年目 (A2~B1)

話題分野：地域社会と世界、自然環境、交通と旅行、趣味と遊び、

住まい、人とのつきあい、自分と身近な人々

テーマ：移民の歴史と実情について学び、共存社会の一員である意味を考えよう

目標：スペイン語圏の移民問題および日系人移民の歴史や実情について学び、日本に在住するスペイン語圏出身の人々との交流を深め、自分が役立てることを見つける。

学習シナリオ ☆形成的評価 ★総合的評価 紫字：必ずしも実施できないもの 緑はメモ

〇〇大学でスペイン語を学ぶ学生たちは、日本に中南米からの”里帰り”移民が多くいることを知り、スペイン語圏諸国に関わる移民問題について興味を持ちました。スペイン語圏の情報が日本にはあまり届かないことにも気づき、積極的に情報にアクセスすること、日本にいるスペイン語圏の人々と交流して生きた情報を得ることによって、自分の出来ることを見つけないかと考えました。

1. スペインの語圏諸国の移民問題に関わる教材を読み、関心を持った点、疑問に思った点を書き出し、整理する。(読む・書く--まとめる) ☆情報をクリティカルに読み取れるか
2. 関心を持った点・疑問点に対する答えのヒントを得る為、スペイン語圏に関する書物を読む。(教員による図書推薦：日本語も OK)
3. 同じような関心や疑問を持った者同士でグループを作り、スペイン語圏が発信しているサイトを見て関連する情報を探す。読み取って分かったことを整理する。(読む・書く--まとめる)
☆グループ作業:必要な情報にアクセスできるか。
4. サイトなどから情報を取り、移住もしくは旅行するとしたらどこの国がいいかを考え、なぜ行きたいかを互いに説明し、また質問したり意見を交換したりする。
移住の目的は何か、移住先でどのようなことを期待するか、どのような問題が生じると予想するか
<話す・聞く> ★自分の考え・希望を的確に伝えられるか、人の話に関連付けられるか
(その後行くことができた人は実際の体験、イメージとの差などを報告する。) ☆
5. 実体験を伴った生きた情報を得るため、日本に来ているスペイン語圏の人々との交流会を企画する。
場所、日時、招待する人、料理、音楽、特別企画などについて話し合い、招待状をグループで作成する。(話す、聞く、書く) ☆必要な情報を適切な形で伝えられるか

6. 交流会で幅広い話題を提供したり色々なテーマに答えたりするための準備をして、交流会を実施する。

1)相手に何を伝えたいかを考える。(プレコミュ)

自分の情報、日本社会全体の話、自分が聞きたいことを整理し、どう伝えるか考える。

(日本の紹介文はグループで作成) (書く)

☆自分の話と国や社会の話とを識別し、的確に伝えられるか。

2)相手に何を聞きたいか考える。(プレコミュ) (相手への関心を示す態度)

(参加者の出身国の基本的な情報はネットや書物などで予めグループで調べておく。)

☆個人の話と国や社会の話とを識別して整理できるか。

3)交流会を楽しむ 〈話す・聞く〉 ☆積極的に話そうとしているか

4)交流した人にお礼のメールを出す 〈書く〉 ☆適切な言葉で感謝の気持ちを伝えられるか

5)振り返り：交流会の経緯と学んだことをまとめた報告書を書く。

どんな話題が出たか、予想外の話題・答えられなかった話題は何か、それはなぜか、etc.

自分の関心のあることについて新しい情報は得られたか。

★体験談をテーマに沿って整理・分析し、報告できる

7. 交流会でボランティア活動のことについて知り、ボランティア活動に参加する準備をする。

1)ボランティア活動にはどのようなものがあるか調べる。(知識・認識を深める)

2)自分が体験したボランティア活動について互いに話す。(話す・聞く) (現在完了、過去)

☆自分の体験を解り易く話し、相手の話に適切な反応ができるか

3)ボランティア活動についての色々な考え方や体験談を読み、

活動の色々な側面をチャートにしてまとめる。

☆情報を客観的・主観的・肯定的・否定的などの基準で識別できるか

4)自分がやりたい・できるボランティア活動は何かを考え、理由とともに述べる。

〈話す・聞く〉 未来形 poder, querer ☆

5)スペイン語圏の人々と関わるボランティア活動を探し、参加する。

6)ボランティア活動の問題点について自分の経験や議論を踏まえた考えを書く

★あるテーマについてまとまった意見を述べることができる。

コミュニケーション能力指標

地域社会と世界

- 2b：自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。
- 2d：日本や相手の国の有名人や建築物について名前や特徴を口頭または文章で紹介できる。
- 2e：身近な社会制度について会話できる。
- 2f：日本や相手の国の特徴を口頭で説明できる。

自然環境

- 2a：季節の好き嫌いとその理由について、会話できる。
- 2d：日本や相手の国の各地の気候や地理の大まかな違いなどについて、書いたり話したりできる。

交通と旅行

- 2i：旅行計画や今までの旅行について会話できる。
- 3b：観光地の案内プレートや説明文・ガイドブックの大意を理解できる。
- 3e：将来行きたいところやお薦めの旅行先について、理由を含めて語り合うことができる。
- 4a：旅行の目的地について調べてレポートにまとめ、口頭または文章でやりとりできる。

住まい

- 3f：日本と相手の国の多様な住居について書かれた文章を読んで、それぞれの特徴を、簡単なレポートにまとめることができる。

趣味と遊び

- 2e：休みの日によくすることについて、感想を交えて会話できる。
- 2f：好きなものや趣味が何か、口頭でまたは書いてやり取りできる。
- 3b：好きなことや熱中していることの、素晴らしさや面白さを口頭で伝えることができる。

自分と身近な人々

- 3b：好きなことやモノ・人について、その理由を含めて、口頭でまたは書いて紹介し合うことができる。
- 3g：将来の夢や希望について、語り合うことができる。

人とのつきあい

- 2b：相手の都合を聞いて、日程や場所などを決めることができる。
- 3e：相手の国の家庭や学校で守らなければいけないマナーやルールについて書かれた文章を、読んで理解できる。
- 3f：日本と相手の国の人々の好みや日常の習慣・付き合い方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。四宮瑞枝：単元のセールスポイント

プロセス1：関心事に気付き、情報を求める。

文字や映像、体験談など色々な情報がある中で、疑問点や興味を持つことに自ら気づくことを大切にしたい。興味に沿って更なる情報を求めていく時に、歴史的経緯の重要性を知り、学びの意欲が増すことを期待する。また、偏った見方、部分的な情報、客観的情報、主観的分析、古い情報などを見分けることを学び、考え、感じる力をつけたい。

プロセス2：人から学ぶ、人と情報を共有することの意義を実感する。

人の話に耳を傾けるとともに、自分の意見を持つことの意義を学ぶ物事を決定する時の根拠とプロセスを意識することで、理解が深まることを実感させる。

プロセス3：行動を起こす時に重要なことは何かを学ぶ。

実体験・行動を起こすことの重要性を学ぶ。知識があるだけ、考えているだけの時とは感じ方や見方も変わってくることを実感させ、次への展開につなげる

補足：単元を目標ベースで分解したシートで、>印を付けた項目は、大学の授業の枠内では行えない可能性があるものを意味している。

補足：初級授業でもクリティカルシンキングと知識の重要性を認識させる授業は勿論重要であるし実施も可能だが、初級の場合は学習言語を使う割合が減ってしまうので、各単元の中にこのプロセスを部分的・単発的に盛り込むというのが現実的かつ有効なものとなると思う。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2013 課題発表：目標設定・活動・評価

作成者：東京大学/非常勤講師 四宮瑞枝

テーマ：移民の歴史と実情について学び、共存社会の一員である意味を考えよう

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことを尋ねるために必要な言語表現がわかる。 観光案内をするために必要な語彙・表現がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが観光案内したい場所と、日本人大学生が行ってみたい場所との共通点や相違点を知る。 日本人大学生が韓国を訪れた場合に、遭遇するであろうシチュエーションについてさまざまな資料を読んで知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日韓関係の構築において、日本と韓国の大学生同士が相互に交流することの重要性を知る。 グローバル社会に置いて SNS や Skype などの手段を効果的に用いることの有効性を知る。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 日本人大学生に好きなことや行ってみたい場所についてインタビューをして情報が収集できる。 観光案内の文章が作成できる。 添削やアドバイスをもらった文章を見ながら完成版が作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが観光案内したい場所と、日本人大学生が行ってみたい場所との共通点や相違点がどのような背景から生まれているか分析できる。 日本人大学生が韓国を訪れた際に、気を付けたほうが良い点(食事、交通マナーなど)についてまとめられる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループにおいてメンバーと意見を交換し、自分の役割を責任を持って果たすことができる(協働)。 パンフレット作成という目標を果たすために、必要な情報を収集し、客観的に分析し、それをもとに成果物を効果的に作成することができる(高度思考)。 インタビューをしたり、企画案を発表したり、内容を修正するための Skype セッションをする過程において、ICT の特性を活かして活用することができる(情報活用)。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を使って、日本人大学生と対話をしながら関係を築いていく。 作成したパンフレットを日本人大学生にプレゼントする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本人大学生の持つ文化的背景を考慮しながら、相互に交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科のホームページに成果物をアップし、より多くの人々に情報が発信できる。
三連携	連携1: 大学生の関心のある分野と繋がる。 連携2: 既習内容、学生の観光案内の経験と繋がる。 連携3: 教室外の人・モノ・情報と繋がる。		

「外国語学習のめやす」マスター研修 2013 課題発表：目標設定・活動・評価

作成者：東京大学/非常勤講師 四宮瑞枝

評価ルーブリック

将来移住（留学）する都市・国を決定します。①どんな資料を読むか、②どんな情報を誰から得られか、③移住（留学）先の候補の特徴は何か、④-1 移住（留学）の目的は何か、④-2 決定するにあたって最も重視すべきことは何か、④-3 決定までに何をすべき、以上の6点を明確にしつつ、学習活動の相互の関連性が明確になるように配慮しつつ決定までのプロセスを報告書としてまとめましょう。（②および④1-3はグループ評価です。）

テーマ：移民の歴史と実情について学び、共存社会の一員である意味を考えよう

	目標以上を達成	目標を達成	目標までもう少し	目標達成まで努力が必要
① 資料を探す （情報能力）	問題意識を持ち、キーワードの見極めができ、広い分野から資料を探せる。	問題意識を持ち、キーワードの見極めができ、必要な資料を探せる。	問題意識に明確さを欠く部分があり、キーワードの選択に不十分で資料の入手に困難な場合がある。	問題意識が乏しく、キーワードの選択が困難で、資料を入手できない場合がある。
② 意見交換する （聞く、話す） コミュニケーション	相手の状況や考え方を正しく理解し、自分の考えを明確に伝えて、意見交換できる。	相手の状況や考え方を理解し、自分の考えを工夫して伝えて、意見交換できる。	相手の状況や考え方の概要は理解できるが、自分の考えを伝えることに困難を感じることもある。	相手の状況や考え方をよく理解できず、自分の考えを伝えることに困難を感じる人が多い。
③ 資料を読み取る （読む）	問題意識を持って資料を読み、資料から得られる情報と目的の関連性を明確に理解できる。	事実関係について明確に理解できる。	事実関係について若干理解が不十分なところがある。	事実関係について理解が不十分である。
④（1-3） 目的と行動の関連性を把握し、説明する。	各活動の目的とそれらの関連性をきちんと把握でき、解り易い形で説明できる。	各活動の目的とそれらの関連性を基本的に把握できており、人に説明できる。	各活動の目的とそれらの関連性に対する理解が足りないところがあり、説明に困難を感じることもある。	各活動の目的とそれらの関連性に対する理解が十分でなく、説明に困難を感じる。
⑤ 報告書を作る （書く）	各項目がよく整理されていて、関連性も解り易く、情報提供の役割も十分果たすものとなっている。	各項目がよく整理されていて、関連性も解り、情報提供の役割も果たすものとなっている	各項目の具体性と関連性の整理が不十分なところがあり、解りにくい部分がある。	各項目の具体性や関連性の整理が不十分で、意図が解りにくい。